



渚滑っ子

学校HPコード



教育目標：人間性豊かな児童の育成

～気付きをつなげる子どもの育成～

令和8年3月25日発行

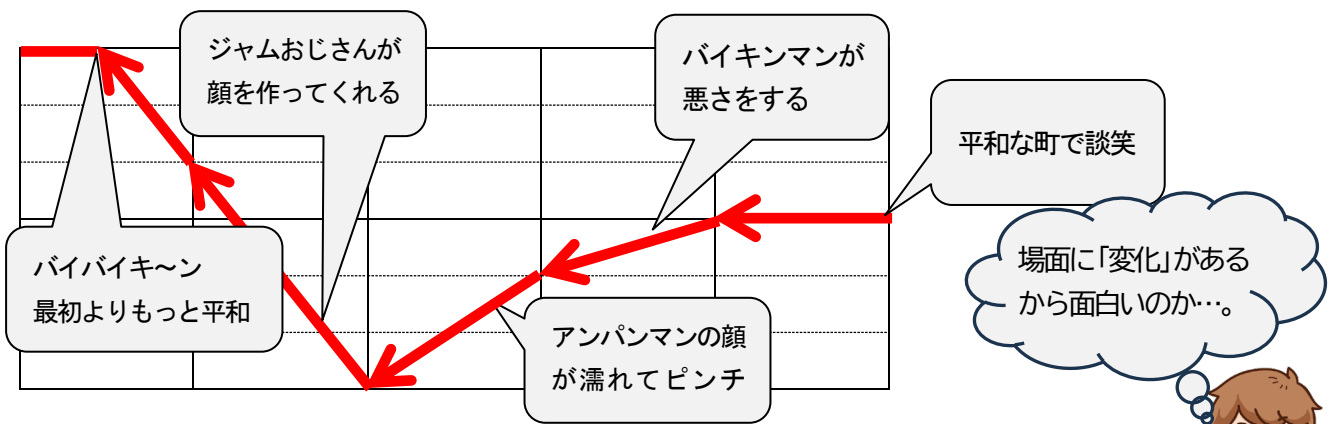
文責：校長 木村 智史

学び続ける、気付きをつなぐ～一年の歩みを振り返って

先日、なぎさ学級の担任に依頼されて、国語の授業をしました。
「国語の学びを好きになってほしいんです。」という、指導者の願いからです。国語の学習を好きにするとは、なんともハードルが高い感じもしますが、私はこの思いは、教員なら誰も思っている願いだと思います。低学年と高学年に分けてそれぞれの実態に応じて授業を組み立ててみました。

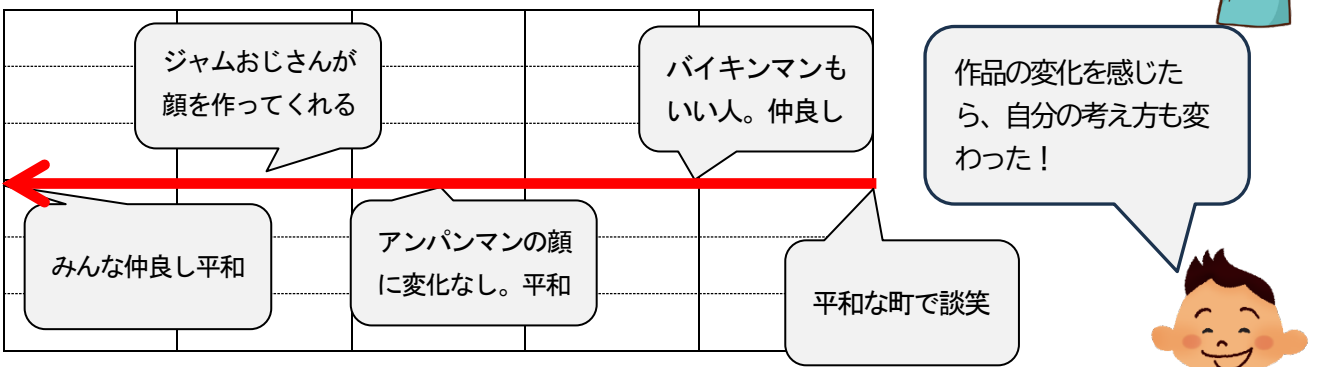
「物語の読み方」を子供たちに、そして、「授業像」について参観した先生たちにメッセージを届けました。高学年向けの授業から…。

「アンパンマンの場面の構造は？」



「これがもし、初めから全く変化のない場面構造だとしたら…。」
「作者のやなせたかしさんは、どんなメッセージを届けてくれた？」

【授業中の子のつぶやき】



この考えを、授業に当てはめると、
「変化のない授業、自分が変わらない授業は、面白くない。」
ということです。

何気なく読む物語も、読み方の視点を学び、メッセージを感じながら読むことで、「自分の変容を感じられる授業」になります。一年間で「1,000時間」の学習をする子ども達が、やらされている学びではなく、自分で学ぼうとする時間へ変化させることが、教師のスキルとして大切です。そういう変容こそが学びだと子は自覚することです。

「わかる」から「もっと知りたい」へ

今年度、本校では、「毎日の学びを日常に生かす」ことを経営の重点に掲げました。子供たちが「おや?」「どうして?」と変化を感じる授業を展開することで、学びへの目的意識を持ち、自走し続ける力を育みたいと考えたからです。

特に重点目標としたのが「気付きをつなげる力」です。一見バラバラに見える知識や、友達のふとした意見を自分事としてつなぎ合わせ、新しい発見へと変えていく。教室を回ると、前のめりになって議論し、自分たちで答えを導き出そうとする頼もしい姿が数多く見られるようになりました。「自分で学び続ける資質」の種は、表出しています。

知的な成長とともに大切にしてきたのが、「朝の挨拶」と「整理整頓」という当たり前の習慣です。身の回りを整えることが、自分以外の人や物、つまり「周りの環境」に関心を寄せる第一歩だからです。

誰もいなくなった放課後の教室を観て回ると、黒板のチョーク受けや黒板がきれいに拭き取られていたり、机を整えたりして下校させている教師の指導の後も見られました。

靴箱の靴が揃っているか。相手の目を見て挨拶ができていないか。こうした小さな気遣いができるようになった子は、友達の小さな変化にも気付くことができる「優しい子」へと成長します。

この一年、廊下ですれ違う際の明るい声や、困っている友達にそっと手を貸す姿が溢れました。アンケートや日々の会話の中で、多くの子供たちが「先生が好き」「学校が楽しい」と笑顔で話してくれたことは、我々教職員にとって最大の励みとなりました。



令和九年度、新たなステージへ

本校は令和九年度の義務教育学校開校に向け、準備を進めています。義務教育学校の名称が、「紋別市立渚（なぎさ）学園」となりました。

これから、紋別市にとって、渚滑地区学校にとって、九年間の一貫した教育の中で、子供たちがより深く学び、より広く地域とつながるための大きな挑戦です。今後とも渚滑小・中学校への変わらぬ応援をよろしく申し上げます。

一年間、本校の教育活動を共に見守ってくださり、本当にありがとうございました。

そして、素敵な二年間、忘れません。

お世話になりました

3月31日をもって、渚滑小学校を異動・退職する職員です。お世話になりました。

職	氏名	本校在籍	異動先
校長	木村 智史	2年	北見市立西小学校
教頭	窪田 大輝	3年	遠軽町立南小学校
教諭	関 知子	5年	津別町立津別小学校
教諭	本田 弦矢	5年	北見市立緑小学校
教諭	山崎 紗知子	4年	北見市立東小学校
養護教諭	千葉 裕太	4年	遠軽町立遠軽中学校望の岡分校
特別支援教育支援員	藤田 直子	5年	任期満了につき退職
学習サポーター	渋谷 菜弥	1年	任期満了につき退職

お知らせ

先日の参観日全体懇談の中でお知らせしていた以下の期日が決定いたしました。ご確認願います。

- 4月 6日（月） 始業式・入学式
- 4月25日（土） 全校参観日・PTA総会
- 4月27日（月） 振替休日